

第16回日本正常圧水頭症学会を岡山で開催して

Hosting the 16th Annual Meeting of the Japanese Society for Normal Pressure Hydrocephalus

会長 伊達 勲 (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 脳神経外科学)

Isao Date (Department of Neurological Surgery, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences)

第16回日本正常圧水頭症学会を2015年2月28日(土) (プレミーティングセミナーは2月27日(金))に会長として岡山コンベンションセンターで主催いたしました。全国から脳神経外科医, 神経内科医, 放射線科医など250名が参加し, 活発な討論が行われました。外科治療が有効な認知症, 歩行障害として注目をあつめております正常圧水頭症について討論する本学会を, 岡山で開催することができましたことを大変光栄に存じますとともに, 学会が成功裏に終了しましたことを関係の皆様へ深く感謝申し上げます。

正常圧水頭症の病態解明, 治療法開発, 社会への啓蒙など, 本学会がこれまで果たしてきた役割は大きいものがあります。さらにこの数年, 学会主導で行ってきた臨床研究 SINPHONI studyなどを契機に, 正常圧水頭症に関するデバイス, 手術手技, 分類, 画像診断, 取り巻く社会環境などに新しい側面が見えてきました。そこで今回の学会のテーマを「正常圧水頭症の新展開」とし演題募集しましたところ, 73題という多数

の演題を応募いただき, 1日でこなすのはなかなか大変でしたが, 2会場で熱心な討論がなされました。

教育講演を2題お願いいたしました。東海大学脳神経外科の松前光紀先生には「脳脊髄液の動きを可視化する」と題してお話いただきました。脳脊髄液の動きを画像でとらえようとする試みについて, その歴史からはじまり, 最先端の研究までまとめていただき, 大変勉強になりました。MRIの応用で脳内の髄液の流れはかなりのレベルまで可視化できるようになっており, 治療法の決定や, 治療効果の判定に大いに役立つと思われまふ。藤田保健衛生大学リハビリテーション学科の大塚圭先生には, 「歩行障害を客観的に診る」をお話いただきました。歩行分析の方法論は, 歩行障害を主訴の一つとする正常圧水頭症の病態解析, 治療効果の数値化に直結します。先生の方法は, 患者の



会長挨拶 (伊達 勲)

第16回日本正常圧水頭症学会

会場: 岡山コンベンションセンター
 会期: 2015年2月28日(土) プレミーティングセミナー27日(金)
 会長: 伊達 勲 (岡山大学大学院 脳神経外科)



正常圧水頭症の新展開

プログラム・抄録集

<http://www.med-gakkai.org/suitosho16th/>

学会プログラムの表紙

第16回 日本正常圧水頭症学会



学会運営してくれた岡山大学脳神経外科のメンバー

三次元トレッドミル歩行をリサージュ概観図という方法でデジタル分析するもので、現在一般的に行われている歩行秒数の測定などに加えて、今後大きな役割を果たす期待が持たれます。

正常圧水頭症と同様、歩行障害が重要な症状である疾患にパーキンソン病があります。脳深部刺激療法、脊髄刺激療法はいずれも電気刺激療法としてパーキンソン病の治療の重要な手段です。ランチョンセミナーでは、順天堂大学脳神経外科の中島 円先生と、岡山大学脳神経外科の上利 崇先生に、「正常圧水頭症診療に役立つ電気刺激療法 update」と題してお話いただき、正常圧水頭症診療に携わる各科の先生方に大いに役立つ内容でした。

プレミーティングセミナーでは、一般演題でカバーしきれないような領域を含め、エキスパートの先生方からじっくり教育的なお話をうかがうことができました。正常圧水頭症は歩行障害が主症状の一つであるため、患者の転倒には十分気をつけなければなりません。日本転倒予防学会理事長の武藤芳照先生に「転倒予防の理念と実践」をお話いただき、普段の患者管理に注意すべき事を学びました。パーキンソン病などの診断に最近注目を集めている DAT scan ですが、認

知症の鑑別にも役立つことがあります。順天堂大学神経内科の本井ゆみ子先生には「DAT scan を用いた認知症の鑑別診断」と題してお話をいただきました。脳神経外科の分野からは、恵み野病院の貝嶋光信先生に「術後改善率向上のための基本戦略」、多摩北部医療センターの岡田隆晴先生に「外来で iNPH を見逃さないためのポイント」、公立能登総合病院の橋本正明先生に「院内転倒と DESH 所見との関係」をお話いただき、正常圧水頭症の診療に携わっている会員に益するところ大でした。

「正常圧水頭症」という一疾患を扱う学会ですが、今回のテーマの「正常圧水頭症の新展開」に相応しい沢山の演題を発表いただき、一日中熱心な討論が続きました。学会としての臨床研究である SINPHONI study の成果もサブ解析を含め沢山論文発表がなされ、この分野の盛り上がりを感じられます。岡山大学脳神経外科でも引き続き本疾患について研究を続けていきたいと思えます。

平成27年 8月受理
〒700-8558 岡山市北区鹿田町 2-5-1
電話：086-235-7336 FAX：086-227-0191
E-mail：idate333@md.okayama-u.ac.jp